◇年表

	和暦	西暦	年齢(数え)	できごと
からくり儀右衛門の誕生 / 久留米時代	寛政 11 年	（1799）	1 歳	久留米城下の通町十丁目に生まれる
	文化 4 年	（1807）	9 歳	開かずの硯箱を製作
	文政 2 年	（1819）	21 歳	五穀神社などでからくり披露
	文政 7 年	（1824）	26 歳	大坂などでからくり興行
生活を明るく便利に / 大坂・京都時代	天保 5 年	（1834）	36 歳	大坂移住、懐中燭台発明
	天保 8 年	（1837）	39 歳	京都移住、無尽灯発明
	嘉永 2 年	（1849）	51 歳	「近江大掾」の称号を得る
	嘉永 3 年	（1850）	52 歳	須弥山儀を製作
	嘉永 4 年	（1851）	53 歳	万年時計が完成する
西洋科学技術への挑戦 / 佐賀・久留米時代	嘉永 6 年	（1853）	55 歳	佐賀藩の理化学研究所（精錬方）へ
	安政 2 年	（1855）	57 歳	蒸気車・蒸気船の雛形製作
	文久 2 年	（1862）	64 歳	佐賀藩電流丸の蒸気ボイラー完成
	元治 元年	（1864）	66 歳	久留米移住、久留米・佐賀兼務
	慶応 元年	（1865）	67 歳	国産初の蒸気船凌風丸完成（佐賀）
	慶応 2 年	（1866）	68 歳	久留米で大砲鋳造、上海に密航
電気機械工業の礎 / 東京時代	明治 6 年	（1873）	75 歳	東京に転居
	明治 7 年	（1874）	76 歳	電信機の製造を開始
	明治 8 年	（1875）	77 歳	東京・銀座に店舗兼工場を構える
	明治 11 年	（1878）	80 歳	電話機を試作、報時器を製作
	明治 14 年	（1881）	83 歳	東京の自邸にて永眠

◇発明工夫に没頭する日々－家族の証言－

「私は発明工夫の事以外、考えたこともない。夜はアイデアを考え、昼は実際に作業する。食事や（好きな）晩酌の時も、常に考えをめぐらしている。食事の際、最も美味と感じるのは発明工夫の事で、これに勝る好物はない。」

久重は常々このように語っていたといいます。彼の頭の中はいつも、ものづくりのことでいっぱいでした。

発明工夫に没頭する姿を伝える、甥（弟の子）らはこう証言しています。

「部屋（通町十丁目の離れ）は２階でしたが、２年ばかりほとんど外出しなかったことがありました。また、実際３時間以上眠ったことがありません。それでも平気なようでした。６・７日徹夜した次の日、今夜こそはと梯子を登って部屋を覗くと、変わった様子もなく打ち込んでいます。」

また、日々の食事についても、次のような有り様でした。

「発明工夫に没頭しているときは、何度食事の準備ができたことを告げても返事がない。仕方なく、食膳や握り飯を階上に運んでも、結局手をつけないこともしばしばでした。」

大人になっても、発明工夫に打ち込む生活スタイルは変わりませんでした。

「（久重は）なかなかの酒好きで、晩酌で気持ちよく酔ったあと、そのまま眠り込みます。時計が 12 時を報じ家族が就寝したとたん、（久重は）大あくびとともに起床。家族は眠り、久重は机に向かう。灯りは煌々と明け方まで消えない。夜明け頃、家族を起こし、自分は仕事を始めます。近所の人は皆、久重さんは眠らない人だと言います。」

生まれながらにして「からくりの才能」に恵まれていたともいわれる久重ですが、実は大変な努力家であり、強靭な体力の持ち主であったことがわかります。

田中久重作「無尽灯」（東芝科学館蔵）